

第7回 棒の嶺(棒の折山)

第5支部 東邦化成(株)
幹事 磯部 進
平成13年10月14日 快晴

ハイキング同好会第7回は、10月14日に奥多摩と秩父の間にある棒の嶺ハイキングを行った。午前9時に、西武池袋線飯能駅に集合したのは、第1支部から井上塗料(株)の小野寺さん、幹事の(株)乾商会の乾さん、第5支部から上田(株)の原さんの奥様と私、第9支部から(株)堀切塗料商会の長田さん、第12支部から初参加の森商事(株)の森さんの6名でした。

日本晴れの上天気の中、飯能から9時22分発のバスに乗り、約30分で「さわらびの湯」に到着、ここから名栗湖ダムサイト(有馬ダム)まで舗装道路の急なぼりが数分続きます。今回のコースは唯一、沢を経由して棒の嶺に登るルートです。

このコースは涼しいので、本来であればもっと早い時期に行う予定でしたが、8月の終わりに、有志の富士登山を組み込んだため、10月になりました。冬季は沢が凍結するため、使えないルートです。

さて、8月の下見の時はかなり減っていた湖水も、今回はほぼ満水になっていました。湖岸の道を10分程度歩くと沢に沿った登山道入口があります。いよいよ登りに掛かります。初参加の森さんは二日酔いにもかかわらず、好調に登っていました。途中、水量が多くいつもより立派な滝の前で休憩を取りながら林道に到着、沢とはお別れです。

この辺りまで来ると、しきりに「だまされた！ハイキングじゃなくて登山だ！」と言う森さんの声が大きくなり、足の不調を訴えるようになりました。急な登りの後、平坦で緩やかに下ると、岩茸石に出ます。ここで尾根筋のルートと合流し、階段状の登山道を登ると棒の嶺(標高969m)に到着です。

軽く食事をし、お茶をしたら出発です。岩茸石までは同じルートを下り、森さんの足を労わり、なるべく早く林道へ出るルートを探りました。このルートのため、「さわらびの湯」には寄れなくなりますが、昔からある「名栗温泉」には寄れます。しかし、帰りのバスの時間の関係で、「名栗温泉」ではビールを飲み、休憩だけとなりました。数分遅れ(2時50分頃)のバスに乗り、飯能に向かい、天覧山下で下車し、名栗川を渡り、例の蕎麦屋に無事到着しました。

今回は休憩を除いて4時間強のコース設定のせいもあり、新規の参加者が増えて良かったと思います。次回、忘年山行も「伊豆が岳」と比較的楽な方です。皆様が、気軽に参加できるよう、今後も企画して行きたいと思っています。